

「事業名：“オール近大”川俣町復興支援プロジェクト」

平成30年度補助事業の実績・成果

近畿大学 連携市町村：川俣町

連携市町村との協定締結日：平成29年5月16日 現地拠点：伊達郡川俣町役場西分庁舎

事業のポイント

「マイナスからゼロへ」という被災からの再生支援と「ゼロからプラスへ」という復興支援の2本の柱を基本とし、川俣町民の意見を取り入れつつ、学生の知を組織的に活用した復興支援を実行し、一つの復興モデルを構築する。

今年度の活動実績

除染研究・心身ケア

川俣町の放射線・放射能調査のためのフィールドワーク、町役場での聞き取り調査を実施。また、川俣高校にて放射線等をテーマに出前ゼミを実施した。

近大発・川俣ものづくりプロジェクト

地元企業を訪問し、町役場や地域企業の方々と直接意見交換を行い、震災による影響や現在抱えている課題について理解を深め、川俣高校と連携したものづくり支援の可能性を探った。

アグリビジネスマイスター養成・学生の知を活用した産業振興（合同）

川俣町内及び周辺地域でのフィールドワークを実施し、その中で、川俣町の農業・食品関連の事業者等への意向調査・意見交換および周辺地域の道の駅等の調査を実施。また次年度以降の活動の方向性や展望について検討した。

今年度の成果

除染研究・心身ケア

学生が自ら、川俣町での放射線・放射能の現地調査を行うことによって、現状についての関心を持つようになった。また、この事業をリスクコミュニケーション実践の機会と位置付けて、フィールドワークの事前学習として「原子力を専門とする学生」が「専門としない学生」に対して放射線の基礎について説明を行い、理解をすすめた。また、川俣高校の生徒に対しても、出前ゼミを実施した。これらを通じて、参加者全員が川俣町の復興を望み、その筋道について考える機会となった。

近大発・川俣ものづくりプロジェクト

近大ものづくり工房が主体となり編成した『川俣ものづくり探検隊』が川俣町および地元企業を訪問し、町役場や地域企業の方々と直接意見交換会を行うことができ、震災による影響や現在抱えている課題について理解を深めることができた。また、川俣高校と連携したものづくり支援の可能性や課題を探る機会が得られた。

アグリビジネスマイスター養成・学生の知を活用した産業振興（合同）

学生らが中心となり、川俣町内でのフィールドワーク等を実施することで、川俣町の農業・食品関連の現状や課題を明らかにした。あわせて、次年度以降の活動内容（川俣町関係者と連携した商品開発、メニュー開発等）の方向性や展望について、川俣町の関係者（役場、農業振興公社等）と検討・共有することができた。



川俣町内での
フィールドワークの様子